

楯山城跡が伝える歴史

現在確認されている大江町内の中世城館跡 30 ヶ所は、長辺の長さが 100m ～ 150m 程度のものが多くを占め、大型のものでも 200m 程の大きさです。そのなかで、左沢楯山城跡は群を抜いて大きな規模を誇っており、左沢氏（大江氏）による支配の拠点として重要な城でした。このような楯山城跡は、当地の歴史を伝える貴重な遺跡です。

左沢を含む寒河江荘は、1189 年、大江広元が地頭となり、その子孫に受け継がれました。左沢楯山城は南北朝の動乱のなかで、大江氏が寒河江領内の防備を固めるために一族を各地に配した際、成立したと考えられています。

築城は寒河江の大江時茂三男の元時で、早くとも 14 世紀半ばです。城主は元時－氏政－満広－時高－頼広－政勝－満政－氏政－政周と続きますが、永正 11 年、政周が最上方として長谷堂で伊達氏と戦い戦死した以後は分かっていません。戦国末期、義守と義光が争った最上家の内紛に際し、左沢は溝延・白岩などと義守方につき、義光方の寒河江を攻めるなど、大江氏の諸族が分立する傾向をみせますが、天正 12 年、最上義光が寒河江を攻め、敗れた大江高基が貫見の御館山で自害して寒河江大江氏は滅亡します。左沢楯山城も最上氏の支配下に入り、慶長 5 年、最上軍と上杉軍（直江軍）が戦った出羽合戦では、左沢でも、関ヶ原の合戦の結果を知り撤退した上杉軍の残党狩りが行われました。

元和 8 年、最上家が改易となり酒井直次を藩主とした左沢藩が成立すると、小漆川に新しい城が築かれて左沢楯山城は廃されました。楯山に城があったことは近世・近代にも知られており、たびたび報告がなされてきました。平成 5 年以降、大江町が「左沢楯山城跡関連調査委員会」を設置して城跡の調査を行い、平成 21 年 2 月に国の史跡指定を受けています。

■左沢楯山城跡関連年表

| 年 号 西暦      | で き ご と                                                                                             |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 和 銅 元 7 1 2 | 出羽国が置かれる。最上・置賜の 2 郡が出羽国の所属となる。                                                                      |
| 11 世紀前半ころ   | 寒河江荘（現在の西村山郡周辺）が成立する。                                                                               |
| 文 治 5 1189  | 中原広元（大江広元）が幕府体制確立と奥州平定の功により寒河江荘、長井荘を賜る。                                                             |
| 正 平 11 1356 | 斯波兼頼（最上義光の祖）、羽州管領として山形に入る。以後、南朝方の寒河江大江氏と北朝方の斯波氏との抗争が続く。                                             |
| 正平年間 1346～  | 寒河江の大江時茂三男、左沢元時が楯山城を築城し、寒河江八幡宮分霊を八幡平に勧進したと伝わる。                                                      |
| 正 平 23 1368 | 漆川の戦い。山形の斯波直持・兼頼らが寒河江大江氏を攻める。溝延茂信、左沢摂津、柴橋直干など大江一族 60 余人敗死する。                                        |
| 文 明 11 1479 | 伊達成宗が寒河江を攻める。寒河江知広、左沢摂津、溝延備前ら大江一族協力して迎撃する。成宗は翌年も寒河江に攻め込む。                                           |
| 永 正 11 1514 | 伊達直宗が最上侵攻を始める。楯山城主九代左沢政周、最上義定の要請を受け長谷堂の戦いに参戦し戦死する。                                                  |
| 天 正 2 1574  | 山形の最上義守・義光親子の不和が内紛となる。寒河江城主は義光派、左沢城主や溝延城主は義守派となり、左沢・天童・谷地・蔵増・溝延の各城主が寒河江城を攻める。                       |
| 天 正 12 1584 | 寒河江城主十八代大江高基、最上義光に攻められ中野原に戦って敗走する。貫見村（現大江町）松田彦次郎の楯に逃れたが、御館山山頂で自刃する。<br>左沢を含む寒河江領は最上義光の配下に入る。        |
| 慶 長 5 1600  | 上杉景勝の将で米沢城の直江兼統が、関ヶ原の戦いに応じ石田三成方として徳川方の最上勢を攻める。<br>兼統の別動隊として志駄義秀らが白岩・寒河江・谷地の諸城を陥れるが、関ヶ原での石田方敗戦を知り退く。 |
| 元 和 8 1622  | 最上家が改易となる。左沢では庄内藩主酒井忠勝の弟、直次を藩主とした左沢藩（1 万 2 千石）が成立する。                                                |
| 寛 永 元 1624  | 酒井直次により小漆川城築城が始まったと伝わる。これに伴い左沢楯山城は廃城となる。                                                            |
| 平 成 5 1993  | 大江町が「左沢楯山城跡調査検討委員会」を設置。翌年から「左沢楯山城跡関連調査委員会」が発足し左沢楯山城跡の調査が進められる。                                      |
| 平 成 20 2008 | 2 月 12 日、国史跡の指定を受ける。大江町が史跡の管理団体に指定される。（翌年 2 月に追加指定）                                                 |

保存管理計画策定（2010 年 3 月）

「町の宝」など 3 つの理念と 5 つの方針を定め、「八幡座地区」「寺屋敷地区」など史跡内の地区区分を行って、現状変更の取り扱いや整備の考え方などを定めました。

■植生調査

城跡全体の植生調査を行い（2009 年）、楯山には城郭特有の植生であるシャガやヤダケが分布していることが分かりました。他に、貴重なヒメサユリや、かつて当地の特産物であったアオソやウルシなどが確認されています。



シャガ



イヌザクラ



ヒメサユリ（葉）



八幡座虎口（人が立っている場所に柱があった）



唐津皿の出土状況（最上川沿い C7 調査区）



八幡座の櫓柱穴跡（岩盤を掘り柱を建てる）



発掘調査現地説明会（八幡座）

整備事業で山城の建物などを表示するため、山頂「八幡座」全体の発掘調査を行って櫓跡などを確認しました。また、散策路を整備するため、山城があった当時人々が歩いた場所（城道）を解明するための発掘調査を実施しました。

発掘調査（第 1 期整備目的 2011～16 年度）



楯山公園北側斜面の被災状況



左沢楯山城跡の被災状況と最上川



楯山公園北側斜面の復旧状況

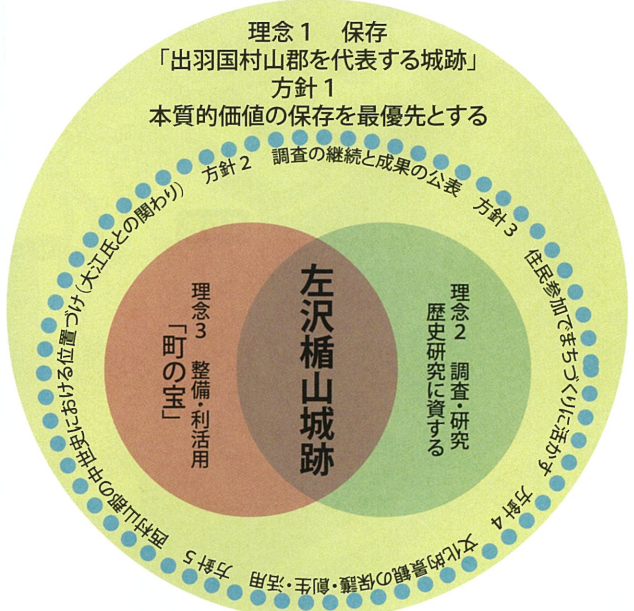


楯山公園南側斜面の復旧工事

2013 年 7 月 17 日から 18 日にかけて大江町を襲った豪雨により、史跡内でも複数箇所では斜面が崩れるなどの被害が生じました。大きく崩れた楯山公園北側斜面では、発掘調査で旧地形を確認し、斜面の成型と繊維の吹き付けによる補強を行うなど、各所の復旧工事を実施しました。

豪雨災害の復旧工事（2013～15 年度）

山城跡の保存整備



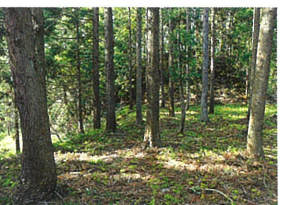
■左沢楯山城跡保存管理の理念と方針模式図（「史跡左沢楯山城跡保存管理計画」より）

第 1 期整備計画策定（2017 年 3 月）

「左沢楯山城跡の構造が体感できるようにする」ことを目標に掲げ、「表示された遺構や明確化された城の地形を眺めながら城跡を散策することができる」、「城跡内外への良好な眺望環境を楽しむことができる」、「要所に設置する説明板等を通して城の工夫や魅力が伝わる」、「安全に城跡を歩くことができる」ことを目的とした、散策路設置や遺構表示、樹木伐採による眺望確保などの整備を計画しました。



城内「ゴホンマル」付近地形整備イメージ



「ゴホンマル」付近 整備前の様子



ワークショップの様子



現在も様々なテーマで現地見学会を開催